水切り、生ごみを減らして可燃ごみの減量化にご協力をお願いします!!

可燃ごみの発生量は一般的に夏季に増加するといわれており、大山町でも例年夏季（7・8月）に増加する傾向が見られます。（図1）

その原因として、水分量の多い生ごみが増えるためといわれています。

これから可燃ごみの増加する季節になりますので、より一層の可燃ごみの減量化にご協力をお願いします。

○可燃ごみの現状

町では毎年度可燃ごみのごみ質試験を行っており、その結果は図2のとおりです。

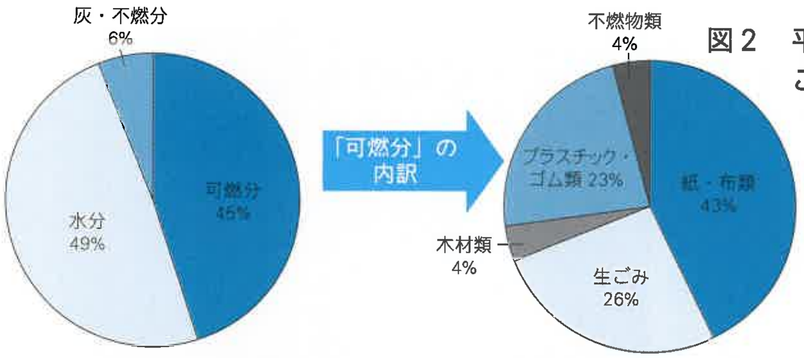
平成26年度に町内で排出された可燃ごみは3，303・4トンで、ごみ質試験の結果より『水分1，618・7トン（49%）、可燃分1，486・5トン（45%）』、可燃分のうち『生ごみ386・5トン（26%）』と推計されます。

図１　年度別大山町内の可燃ごみ排出量（単位：トン）

	平成２４年度	平成２５年度	平成２６年度
６月	271.5	258.9	274.0
７月	315.0	302.4	304.1
８月	319.2	320.3	305.3
９月	243.0	259.8	281.7
年度総排出量	3,295.1	3,287.0	3,303.4
年度月平均排出量	274.6	273.9	275.3

年度平均排出量より３０～４０トン増加します。

図２　平成２６年度可燃ごみごみ質試験結果※



可燃ごみの３成分（単位：%）　　可燃分の内訳（単位：%）

※割合は重量比で、試験結果は４回分の試験結果の平均値です。

可燃ごみを減らすには？

Ⅰ 生ごみの水切りをしましょう。

可燃ごみに含まれる水分の多くは、生ごみに由来すると考えられます。

鳥取県が行った「ごみ減量リサイクル効果の検証」によると、『生ごみの水切りの徹底』により、約22%の減量効果（26年度の町内排出量に換算すると『726・7トン』）が実証されています。

・水切りをして水分を減らすことにより、

① 可燃ごみの体積、重量が減り、ごみ袋の節約につながります。

② 可燃ごみの焼却効率が上がり、処理費用の削減が見込まれます。

Ⅱ 生ごみを堆肥化してみませんか？

「ごみ減量リサイクル効果の検証」によると、『生ごみの堆肥化』により、約28%の減量効果（26年度の町内排出量に換算すると『925・0トン』）が実証されています。

大山町では、ごみの減量化・リサイクル事業の一環として、『電気式ごみ処理機購入費補助制度』・『生ごみ処理容器購入費補助制度（コンポスト・バケツ型容器等）』を行っています（制度の内容は、広報5月号をご覧ください）。

水切り、生ごみを減らして、可燃ごみの減量化にご協力をお願いします。

◆問い合わせ先
住民生活課
☎0859-54-5210